

****尚、通年下記行事を実施しております。是非御参加下さい。****

◇婦人同朋会◇ 午後1時半より 9月17日 10月15日(11時おみがき)
1月21日(互礼会) 3月18日



正信偈を中心としたお勤めからはじまる聞法会です。勤行稽古、座談会、報恩講への参加を御縁とした交流の場でもあります。

新たなお仲間（新会員）歓迎いたします。

皆様の御参加を願っております。

また、寺院ホームページ内「婦人会会員へのお知らせ・伝達事項」のページにて随時お知らせを掲載しております。是非ご覧下さい。

寺院ホームページは「だいおうじ 千種区」で検索して下さい。

『真宗大谷派（浄土真宗）寺院名古屋/大應寺（大応寺）だいおうじ 名古屋市…』の見出しで一番目に検索されます。

- ◇永代経法要◇ 4月25日
- ◇納骨者追弔会◇ 7月25日
- ◇合同初盆法会◇ 8月13日予定
- ◇俳句会◇ 毎月7日
- ◇定例～お参りの日・同朋の集い～◇ 随時



《一口法話》



最近テレビ等で「墓じまい」という言葉を耳にします。かつて「終活」という言葉が使われ始めた時違和感を感じつつも、やがて聞きなれたせいかわらぬ間に耳に馴染み日常で普通に使われております。この「墓じまい」もやがて耳に馴染んでいくのでしょうか？

そもそも無縁墓になるのを案じて先祖のご遺骨をお墓から納骨堂や合祀墓に移すことで、正式には「改葬」と言います。墓開きに対して使われるいわゆる“業界用語”でしょうが、お墓を通じた先代からのご縁をお終いにしてしまうようで、何とも残念な思いになります。確かにご遺骨を移した後の墓石は処分され無くしてしまいますが、決して終わりにするのではなく、新たな場所から始まっていくことなのです。戸建ての住宅からマンションへ引っ越したからといって、その人の人生が終わってしまうわけではありません。

こうしたマスコミ用語に惑わされ、何の違和感をも感じる事無く残念で儂い言葉が耳に馴染んでしまった時、残念だと思ふ気持ちも、先祖を尊ぶ心も薄れて行ってしまうような気がします。

私達はもっと言葉を選び、その意味を理解した上で使わねばなりません。



先祖を通じて、大切な人を亡くした悲しみの中から、私達は「生」の意味と命の在り方を学びいただく事ができるのではありませんか。そうした思いに身を寄せれば簡単に「墓じまい」等とは言えないはずです。